

作成日:平成 29 年 7 月 18 日

学校法人 滋慶学園 東京福祉専門学校
平成 29 年度学校関係者評価委員会報告書

議事録作成者:藤城 佳奈

1. 開催日時 平成 29 年 7 月 18 日(火) 13:30~16:30

2. 開催場所 東京福祉専門学校

3. 参加者 学校関係者評価委員

(氏 名)

平方 俊雄 業界関係者(社会福祉法人 東京栄和会 理事長)

西田 憲司 卒業生代表(社会福祉科 卒業生)

野沢 裕美子 保護者代表(こども保育福祉科 1、2 年)※御欠席

高部 英彦 高校関係者(正則学園高等学校 教頭)

桜井 道夫 地域関係者(清新北ハイツ自治会長)

大江 恵子 業界関係者(保育分野)※御欠席

皆川 隆太(社会福祉分野)

内海 哲也(作業療法士分野)

学校職員

小林 和弘 東京福祉専門学校 学校長

小川 昭久 本部長

高橋 友深 東京福祉専門学校 事務局長

舘脇 康郎 東京福祉専門学校 事務局次長

木村 早希 チャイルドケアワーク学部 学部長

奥村 丈司 リハビリテーションワーク学部 学部長

佐藤 祐子 ソーシャルワーク学部 学部長

高野 大輔 キャリアセンター長

藤城 佳奈 学生サービスセンター

4. 会議の概要

- (1) 学園関係者の紹介
- (2) 学園の教育理念について
- (3) 各委員ご紹介
- (4) 平成 28 年度自己点検・自己評価結果報告
- (5) 質疑応答及び審議

(学校関係者評価委員からの意見)

評価項目	学校関係者評価委員の評価点(平均)	評価委員の意見
1. 教育理念・目的・育成人材像	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい教育」は時代のニーズに合わせた変更で重要だと思う。より充実したブランド確立をしてほしい。 ・理念や目標が具体的に明示され、教職員や在校生に浸透しているように感じる。 ・高齢化社会になるので、ますます福祉教育に力を入れてほしい。 ・業界の中で権威する学校を目指してほしい。
2. 学校運営	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、介護分野の募集については高校側からも評判がよくなく苦戦しているように思うが、ここ数年は何か変化はあったか？ →学校おもしろ化計画・仲間作りという2大方針を掲げ、授業や学校の環境作りに力を入れ始めた。 また、将来の目的を忘れないような動機付け教育を意識。この計画を推進することで、学校改革を進めている。 「学生と学生と一緒に授業を構築できる」ような体制作り。当初学生が持っていた志を絶やすことがないような学校作りを目指す。 <p>高校側として、福祉分野に対する理解が「普通科」の学校は少ないのではないかと。ぜひHRや学年の授業を使い、「福祉分野」の仕事を広める授業をしてもらえるといいのではないかと。また、小学生や小さい子供のうちから福祉に関する作文など福祉に関する興味関心を引き出せるのではないかと。</p> <p>江戸川区のすくすくスクールでも活動しているが、高学年になるとボランティアにも興味を示すこどももいるし、高齢者との触れ合いを取り入れている学校も増えている。</p>

		もっと福祉の仕事を広めて欲しい。
3. 教育活動	3	<p>入学前に何かしている取り組みがあれば教えて欲しい。</p> <p>⇒働いていなくても大丈夫だった学生が一般養成科では増えてきた。以前は「学習」という面での入学前教育が多かったが、今は「勤労観・職業理解」を意識して入学前から動機付けをしていけるようプログラムを試行錯誤している。</p> <p>⇒実習に不安を抱える学生が増えてきているので、学内に高齢者サロンやこども教室など実際の対象者と触れ合う機会を学内で増やしている。</p> <p>⇒卒業後1年の離職率は福祉・医療は2%、食分野では20%という業界によって離職率にはかなり幅がある。</p> <p>医療分野として作業療法分野でも入学前の取り組みはしているのか？</p> <p>→作業分野でも、実際に障害をもった方に来校してもらい、自助具を作成する会を設けた</p> <p>作業療法は「その人らしさ」を大切にすること。作業療法でも啓蒙活動をしている。</p> <p>入学から卒業までではなく、その前後のサービスがあるということが今は価値になるのではないか。</p> <p>仲間作りとあったが、縦の学年のつながりもあるか？</p> <p>→こども教室やサロンは学年をまたがっておこなっているの で大学のサークルほどではないかと思うが、つながりはあると思う</p> <p>実習生の中には、実習ノートさえ書けない学生もいる。 先輩が後輩に教えてあげられる環境があるといいと思う。</p>
4. 学修成果	3	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率が高いのが大変すばらしい。 ・多様化されている学生の中で、担任やキャリアセンターなどの体制もあり、退学防止や就職決定につながっている。
5. 学生支援	3	<p>21の項目に関しては「2」にする必要はないと感じている。 ニーズに関してのキャッチ力がすごいと感じた。</p>

		<p>留学生の DO はある程度やむなしという部分があるのでは。</p> <p>→留学生に関しては、様々な仕事がある中で、やはり「福祉」の仕事に就こうと思ってもらえる動機付けという意味では日本人と一緒に。だがそこに言葉や文化の違いの壁があるので毎日試行錯誤。しかし今年の募集活動では、留学生の口コミもあり、介護現場でアルバイトをしている学生がオープンキャンパスに足を運んでくれてきているので、介護への関心度が高い学生が入学してくれているのでは。</p> <p>学校としては、留学生は日本に在留して仕事をしてもらいたいのか？母国に帰って仕事して欲しいと思っているのか？できれば日本に残って仕事をしてもらえるような教育をしてほしい。</p> <p>→どちらもあり得るかと思うが、在留資格が介護でとれるようになったのは大きいことなので、力を入れていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生は、日本の精神・文化の習得は難しいが、受け入れたからには指導力向上が求められる。
6. 教育環境	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各校舎・教室内の設備が整っており明るさもある。 <p>実習ノートに関して話題になったが、基本的な記入例に沿って書くことも大事だが、自ら生み出す力が求められる現代においては、個性を活かせる記入方法をとってもよいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練など安全管理においても力を入れていただいているようなので、高齢者サロンなど安心して運営を続けていただきたい。
7. 学生の募集と受け入れ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり長中期的に「福祉」に関心を示す間口を増やすことが大切なのは（高部様） ・保育は競合校との争いになってきている。 <p>福祉の仕事について「どうしたら魅力を伝えられるのか」を考え、「ストーリー」を大切に考えている。</p> <p>介護、リハビリという一場面に切り離してしまうのではなく、背景にあるストーリーを見せて職種への憧れを持たせることで広報活動をしている。最近では動画や漫画などの魅せ方も使用している（佐藤文）</p>

		<p>例えば、「オレンジデイズ」で作業療法士が流行ったように滋慶学園の中のアニメや映画の学校とコラボレーションしたらどうか？</p> <p>→今リハビリ分野で卒業生の体験談をもとにした漫画を作成中。ストーリーで仕事の魅力を伝える。</p>
8. 財務	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査報告書の公開等により問題はない。
9. 法令等の遵守	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの反省から経験を活かし、更にコンプライアンスの意識向上が見られる。
10. 社会貢献	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献度は非常に高いレベルにあると思う。行政や地域の業界とのコラボレーションのパイオニア的存在になってほしい。

2の項目を中心に説明（高橋局長より）

- ・ 入学者からの就職率が高くはないので、退学者等を含め今後努力していきたいが、就職率自体は99.5%なので3という評価。
- ・ 卒業生も社会的評価について
近年同窓会を開催できず、卒業生の活躍を把握しきれていないので「2」評価。
今後は職種ごとの同窓会を開催して改善していく予定。
- ・ 中途退学者への対応
留学生についての退学率が大幅に上がったこと、精神面で心配を抱えている学生の入学も増えているので、今後どちらのサポートにもつか等を5%⇒3%に戻したい。
- ・ 社会人学生に関しての職業観育成が急務。資格を取得するだけでなく、就職してもらえるよう動機付け。
- ・ 関係法令、設置基準等・・・精神保健福祉士の実習の届け出漏れがあった。
- ・ ボランティア活動について、学費困窮者も多い関係で意識が低い学生が多い。
- ・ 今後はボランティアの意義を伝える上で、単位認定するなどの整備をしていくことを検討している。